

か説清  
ら  
77  
末小

2005.4.1

漢訳ハガード小考 .....樽本照雄 1  
 鄭富灼及其編纂的商務印書館英語教科書  
 .....張 英12  
 『新小説』の発行遅延 .....杜 筆恩18  
 百年是非、如何評説? 2 .....歐陽縈雪20  
 晩清小説作者掃描(貳) .....武 禧26  
 漢訳アラビアン・ナイト(11).....樽本照雄28  
 清末小説から33 電字版へ移行しました。表紙  
 の意匠をすこし変更して記念とします。いうま  
 でもないことですが、原稿の二重投稿はお断わ  
 りです(切勿一稿兩投)。言語の壁はあっても研  
 究に国境はありません。発見情報継続交流が囀

清末小説研究会 日本〒520-0806 滋賀県大津市打出浜 8 番4-202 樽本照雄方

漢 訳 ハ ガ ー ド 小 考  
『血泊鴛鴦』の原作

樽 本 照 雄

清末民初に発表された翻訳のうち、英国作品では、コナン・ドイル(Arthur Conan Doyle)ものが群を抜いて数が多い。短篇は、雑誌に掲載しやすかったと思われる。長篇で単行本化されたものに注意をむければ、ヘンリー・ライダー・ハガード(Henry Rider Haggard)の作品がいやでも

目に入ってくる。

ここで、それぞれの翻訳件数をあげるのが、今までのやりかただ。

阿英が作品数を掲げることをはじめたため、のちの研究者もそれにならう。阿英自身が把握していた作品は、単行本のほかに雑誌に掲載されたものを含めている。

阿英が雑誌を採取の対象に含めたのは、当然のことながら正しい。清末に発生した雑誌という新しい媒体が、小説作品を生み出す装置となったからだ。だが、その採録が不完全であるため、彼が端数まで明記している数字は、事実を反映しているということとはできない。『清末民初小説目録』を現在も増補訂正しつつづけている私にいわせれば、すべての作品を数え上げることなど、ほとんど不可能である。

それでも、ドイルものが群を抜いてい

るという事実を数字で知りたいという読者のために、おおよその数字を示すならば、約200件である。雑誌掲載と単行本を含んでいる。おおまかな数字であることをご承知いただきたい。ドイルの原作が60件しかないのに、漢訳がなぜ約200件なのか。同じ原作を、題名をかえて異なる訳者が発表しているからだ。

ハガードものの漢訳は37件だから、ドイルは文字通り抜群にちがいない。ほかには、ディケンズ (Charles Dickens) が25件、アーサー・モリソン (Arthur Morrison) が15件、スコット (Walter Scott) が6件ある。

シェイクスピア (William Shakespeare) は戯曲だが、漢訳になると小説形式に変身している。24件というのは、ディケンズものとはほぼ同等だ。もともとが戯曲だからという理由で、シェイクスピアを清末民初の翻訳から排除してしまえば、翻訳界の実情を把握することはできない。

そのほか、フランスでは、大デュマ (Alexandre Dumas, père) が36件、小デュマ (Alexandre Dumas, fils) が11件、モーリス・ルブラン (Maurice Leblanc) が22件、ジュール・ヴェルヌ (Jules Verne) が19件ある。

ロシアのレフ・トルストイ (Lev Tolstoi) が約70件、日本の黒岩浪香が26件、とあげていけば、その多彩な翻訳状況がわかるうというものだ。

漢訳全体では、ドイルものが多いのは事実である。しかし、林紘の翻訳について見ていくと彼独自の好みがあることがわかる。

林訳小説で、ドイルものは7種にすぎない(馬泰来の目録<sup>\*1</sup>にもとづく。以下同じ)。一方、ハガードもので刊行された作品は23種にのぼる。林紘は、ハガードの作品がよほど気に入っていた。

参考までに、上にあげた作者たちの林訳がいくつあるかを見ると、トルストイが10件、シェイクスピアが5件、小デュマが5件、ディケンズが5件、スコットが3件、大デュマが2件、モリソンが1件だ。ルブラン、ヴェルヌ、黒岩については、林訳はない。

翻訳が行なわれた状況を冷静にながめれば、英国作品のドイル、ハガード、シェイクスピアなどの名前が自然にあがってくる。しかし、中国には、ドイルとハガードが読者に歓迎された事実を無視する、あるいは認めようとしない研究者がいる。口に出すださなは別にして、それらは一流の作品ではない、通俗小説にすぎない、というのがその理由である。

## 1 阿英のばあい

阿英は、その『晚清小説史』(上海・商務印書館1937.5)「第14章翻訳小説」において林紘の翻訳を紹介する。

漢訳の数を国別に数えあげ、具体的な作家名を出して、いわくシェイクスピア、ディケンズ、スコットである(278頁)。多くの作品が漢訳されているドイル、ハガードは、影も形もない。

『迦茵小伝 (Joan Haste)』は、さすがに無視できなかったらしく書名は掲載する。しかし、それがハガードの作品であると

は記述していない。

阿英の小説目<sup>2</sup>を見れば、ドイル、ハガードも収録されている。つまり、『晚清小説史』を執筆した当時、阿英は単行本の現物を手元に置いていたはずだ。しかし、ドイル、ハガードなどの通俗小説が当時の中国で流行した事実を、阿英は認めたくなかった。事実を事実として冷静に把握するつもりがない。漢訳は存在しているが、それをないものとしてあつかうのだから記述がゆがむ。その影響を受ける研究者も出てくる。

こうして、またしても「阿英問題」(研究の誤りが阿英に起因するという。樽本の用語)に突き当たるのである。

もっとも、海外の通俗小説を無視したのは、阿英だけではなかった(別稿を用意している)。

## 2 曾虚白が無視する

阿英よりも以前に、ドイル、ハガードなどを排除し、そればかりかその処置をかえって誇る目録が出ている。

(曾)虚白「中国繙訳欧美作品的成績」(『真美善』第2巻第6号 1928.10.16)、これを増補した(曾)虚白編、蒲梢(徐調孚)修訂『漢訳東西洋文学作品編目』(真美善書店1929初出未見<sup>3</sup>)である。

『真美善』第4巻第6号(1929.10.16)の出版広告を見ると、なぜだか「蒲梢<sup>ママ</sup>訳」となっている。編纂ものだから「訳」になる理由がわからない。「編」の誤植だろうか。

それはそれとして、内容を説明してつ

ぎのようにいう。「東西洋文学作品で漢語に翻訳されたすべてのものを国別、作家別に編集した詳細な目録」であると。その網羅性を強調してあますところがない。徹底して漢訳を収録した目録だと誰でもが考える。

ところが、目録そのものを見れば、ハガード、ドイル、ルブランの名前が見えない。該目録は1929年3月31日までを収録期限にしている。時期からしてこれらの作家も採録対象に含まれるはずなのだ。しかし、そうはなっていない。広告では網羅したとっているのではないのか、と<sup>ママ</sup>いぶかる。

「編例」のひとつを見ると、雑誌に掲載された短篇は収録しないという。広告は、あくまで宣伝であって実際とは違うらしい。興味深いのは、採録基準なのだ。

三、訳本取捨の基準は、原作の価値をよりどころとする。ゆえにハガード、コナン・ドイル、ルブランなどの三四流作家の作品は収録しない。翻訳が忠実であるかどうかは問わない。(271頁)

「中国繙訳欧美作品的成績」で示した基準を繰り返している。編者の曾虚白は、ハガードたちを「三四流作家」だと認定した。黒岩涙香の名前も見えない。その意味するところは、当時これらの作品を大歓迎した中国人読者とその翻訳者たちの存在を無視するということなのだ。

このような彼の採録基準に対して批判

する人が当然のように出てきた。畢樹棠である。

### 3 畢樹棠の批判

畢樹棠といえば、「關於老殘遊記之続集」(「小説瑣誌」のなかの1項目。『文飯小品』第3期1935.4.5)を思い出す。

「老殘遊記」外編は劉鉄雲の作ではない、という説が日本で提出されたことがあった。太田辰夫が、その根拠に使用したのが畢樹棠の上の文章なのだ<sup>4</sup>。そのころ、私は、『文飯小品』を見ることができなかつた。ある図書館に所蔵されているところまでは調べた。だが、閲覧請求をしてもそのたびに貸し出し中である。太田氏に雑誌を見せてもらうことができ、結果として氏の説を否定することになったのだ。厚かましいと今でも思う。もう30年近く前のことだ。ずっと後になって雑誌の現物6冊を入手した。今、取り出してながめる。畢樹棠が、小さな新聞記事までも丹念に収集していることをあらためて確認する。

畢樹棠の文章で私の印象に残っているものが、もうひとつある。題名を「繡像小説」(『文学』第5巻第1号1935.7.1)という。

「老殘遊記」を最初連載したのが『繡像小説』だった。1930年代には、すでに入手が困難な雑誌のひとつとなっていたらしい。

畢樹棠は、めったに見ることのできなくなった全72冊の『繡像小説』を現物で確認して紹介している。なぜそれがわか

るかといえば、彼が雑誌の停刊時期を説明して「停刊の年月は不明だが、たぶん光緒三十二三年の間だろう(停刊年月不明, 約在光緒三十二三年之間)」(270頁)と書いているからだ。

『繡像小説』は、第13期より発行年月日を記載しなくなる。この事実は、いくら強調してもしすぎることがない。私は、何度でもくりかえす。

畢樹棠が執筆した上の文章を見ればいい。彼も、「停刊年月不明」と明確に書いているのではないか。

ところが、現在に至るまで、中国で発表されている文章のほとんどすべてが刊年不記の事実を認めようとしなない。雑誌を見れば、簡単に確認することができるにもかかわらずだ。そのかわり、「光緒三十二年三月」などとありもしない、おまけに誤った停刊年月日を書き記して全員が平気である。

雑誌を手にとり、畢樹棠の文章を見よ、と書いていて、ふと、私の手が止まる。中国の研究者が、畢樹棠の文章を読んでいるわけではないわけがない。『繡像小説』について説明する人ならば、読んでいて当然の文献だと思い至るからだ。

では、当たり前前の疑問がわいてくる。中国の研究者の多くが、畢樹棠の文章を読んでいるにもかかわらず、なぜ、誤りを繰り返しているのか。

理由は簡単だ。彼らは、雑誌初出の文章を手にはしていないのだと推測する。そのかわりに、魏紹昌が『李伯元研究資料』(上海古籍出版社1980.12)に再録して

いる該文に拠っているに違いない。

雑誌初出を見ていなければ、編者の魏紹昌が、雑誌停刊に関するうへの部分を「停刊は光緒三十二年(丙午)三月である(停刊於光緒三十二年(丙午)三月)」(462頁)と書き換えている事実を知ることにはできない。ほとんどすべての研究者は、魏紹昌が書き換えた箇所を読んで、そのまま引き写しているにすぎない。

阿英がそう記述している、と言って自説の補強に利用してもいるはずだ。結局のところ『繡像小説』第72期に発行年月日が書かれていない事実を無視するのである。

雑誌を手元において正確に記述した文章が、編者によって勝手に書き換えられた。多くの研究者を誤らせる結果となっている。畢樹棠にとっては、まことに気の毒なことだ。

私がいいたいのは、畢樹棠は、努力をして資料を収集しており、記述に際しては資料にもとづいて正確さを心がけているという事実なのだ。その彼が、コナン・ドイルとハガードについて文章を発表しているのだから見逃すわけにはいかない。

題名を「科南道爾与哈葛德」(『人世間』創刊号1939.8.5)という。

冒頭に、「曾虚白の編集した「漢訳東西洋文学作品編目」とのべている。翻訳の編目が出版されたのに触発されて書かれた文章だとわかる。

橋川時雄『中国文化界人物総鑑』(北京・中華法令編印館1940.10.25初版/名著普及

会復刻1982.3.20。581頁)に記述された曾虚白の著作に「漢訳東西詩文作品編目」が含まれている。該目録には、「(曾)虚白編」とあるのだからそれでいい。

ところが、のちに張静廬が編集した史料集は「蒲梢」だけを残して曾虚白を削除した。これでは、もともとの曾虚白が宙に浮く。張静廬の史料を見る限り、編者は蒲梢ということになる。徐調孚の筆名だとは書いてあるが、曾虚白の可能性もあるのではないか。ここに疑問が生じることになった。どちらなのか不明だったのが過去の経緯である。

1978年、私は、台北にお住まいの曾虚白氏に手紙を出したことがあった。「蒲梢」は氏の筆名ではないか、と問い合わせたのだ。氏から否定された返答を得た。中村忠行氏にそれを知らせると、よくやった、といわれたことを思い出す。抱いていた疑問を曾虚白氏に質問しただけで、中村氏にほめられるような事柄だとは、当時は思いもしなかった。今から考えれば、当事者に直接問いただしたことが貴重だったのだと理解できる。日本での研究は、2次資料を利用できるだけのことが多いからだ。

さて、畢樹棠は、曾虚白が「編例」で説明した「三四流作家」の作品という箇所に批判を加える。

「このやり方は、それほどよいものではなさそうだ。なぜなら基準は定めにくいからである。誰が一二流で、だれが三四流なのかは、時に言いにくい。また、目録の用途は、参考に供するところにあ

る。重要なのは詳細なことであって、「書目問答」のようなガイドではないのだ」(14頁)

編者の勝手な価値判断を利用者に押しつける目録であってはならない。当然の批判である。もう少し、畢樹棠のいうところを見てみよう。

「文学訳本の目録編集でしかも最初のものであるならば、もっともいいのは過去の翻訳をできるだけすべてを記録することである。文学の翻訳作品が出てきてから、どのような作品が紹介されたのか、その成績全体はどのような面目なのか、文学の教養がある人には自然にその善悪のわきまえがつく。編者が原作の価値を規定するにはおよばない。編集が完備していて正確、しかも使用者が検索して便利ならば、それでいい目録だということができる。そのほかのことは、問わない」(同上)

読者の判断にまかせよ、利用者を信頼しろ、という意味にほかならない。あれかこれか、編者が選択する必要はない。あれもこれも、とにかくできるだけ多くを収録するのが正しい編集方針だということになる。私に異論はない。

ひとつつけ加えるならば、原本のあるがままに記述することも必要条件のひとつとなろう。ならば、「漢訳東西洋文学作品編目」に発行年月日が記入されていないのは、致命的な誤りといわなければならない。時間軸にならべて翻訳の変遷を探る手がかりを失うのだ。曾虚白と徐調孚がなぜ発行年月日を省略したのか、そ

の理由がわからない。

畢樹棠は、曾虚白が無視したドイルとハガードの略歴を紹介をしたあと、特にハガードの漢訳について説明する。

ハガードの小説が57種あること(一説に58種<sup>5</sup>)、そのうちの21種が漢訳されており、すでに商務印書館「説部叢書」に収録されていること、「血泊鴛鴦」が薛一諤の翻訳である以外はすべてが林紘の漢訳であること、などをのべる。

目を引くのは、原作22種と漢訳21種の一覧表を掲げていることだ。原作名を明らかにし原作発行年の順に配列している。この原作発行年は、畢樹棠が独自に調査した結果だということができる。

原作名を明記しているのを一見して、畢樹棠の丁寧な調査結果に感心する。だが、のちに出された馬泰來の研究成果を参照しながら作品の一つひとつを点検して、私は2度驚く。漢訳21種のうち11種の原作が間違っている。出版されている漢訳1種を見逃したのを加えれば、誤りは12種ということになる。

「畢樹棠の漢訳ハガード一覧表」として別に掲げるので見てほしい。畢樹棠の一覧表にはもれている林訳の作品も馬泰來目録から引用しておいた。

漢訳ハガード一覧表に×印で示した原作の誤りは、どこからきたのか。畢樹棠がハガードの原作を手元に置いていたのならば、ありえない間違いだと考えるのだ。原作にもとづいたのではなく、別に拠る資料がなければ、ここまで誤記するはずがない。

畢樹棠の漢訳ハガード一覧表

畢樹棠「科南道爾与哈葛德」『人世間』創刊号1939.8.5。15-16頁(漢数字をアラビア数字にあらためた)

×印は、ハガードの原作ではないことを示す。

図書彙報:『図書彙報』第118期 商務印書館印贈1927.4

馬 泰来:「林紓翻譯作品全目」『林紓の翻譯』北京・商務印書館1981.11

- 1882 鬼山狼侠伝 × Cetyways and His White Neighbours  
 × 図書彙報 <sup>マ</sup> A tywayo and His White Neighbour  
 馬泰来002 Nada the Lily 1892
- 1884 血泊鴛鴦 Dawn  
 図書彙報 <sup>マ</sup> Dowd
- 1885 蛮荒誌異 × The Witch's Head  
 × 図書彙報 <sup>マ</sup> The Witch's B ead  
 馬泰来009 Black Heart and White Heart, and Other Stories 1900
- 1885 鍾乳髑髏 King Solomon's Mines  
 図書彙報 King Solomon's Mines  
 馬泰来013 King Solomon's Mines 1885
- 1887 天女離魂記 × She  
 ? 図書彙報 H. R. Haggard:著  
 馬泰来018 The Ghost Kings 1908
- 1887 璣司刺虎記 Jess  
 図書彙報 Jess  
 馬泰来014 Jess 1887
- 1887 斐洲煙水愁城録 Allan Quatermain  
 図書彙報 Allan Quatermain  
 馬泰来006 Allan Quatermain 1887
- 1888 英孝子火山報仇録 × Maiwa's Revenge  
 × 図書彙報 <sup>マ</sup> Maiwa's Revenne and Ellisa  
 馬泰来005 Montezuma's Daughter 1893
- 1888 玉雪留痕 Mr. Meeson's Will  
 図書彙報 Mr. Meeson's Will  
 馬泰来007 Mr. Meeson's Will 1888
- 1888 洪罕女郎伝 Colonel Quaritch, V. C.  
 図書彙報 Colonel Quaritch  
 馬泰来008 Colonel Quaritch, V. C. 1888
- 1889 埃及金塔剖屍記 Cleopatra  
 図書彙報 <sup>マ</sup> Cl opatra  
 馬泰来004 Cleopatra 1889
- 1889 金梭神女再生縁 × Allan's Wife  
 × 図書彙報 <sup>マ</sup> All e n's Wife

- 馬泰来022 The World's Desire 1890  
1890 紅礁画漿[漿]録 Beatrice  
図書彙報 <sup>ママ</sup> R eatrice  
馬泰来010 Beatrice 1890
- 1891 世界的欲望 The World's Desire  
与 Andrew Lang 合著，此種未訳。
- 1891 鉄匣頭顱 × Eris Brighteyes  
× 図書彙報 <sup>ママ</sup> Fric Brighteyes  
馬泰来020 The Witch's Head 1887
- 1892 橡湖仙影 × Nada the Lily  
× 図書彙報 Nada the Lily  
馬泰来011 Dawn 1884
- 1894 三千年艶屍記 × Montezuma's Daughter  
× 図書彙報 Montezuma's <sup>ママ</sup> <sup>ママ</sup> Dughters  
馬泰来016 She 1886
- 1894 霧中人 The People of the Mist  
図書彙報 The People of <sup>ママ</sup> Mist  
馬泰来012 <sup>ママ</sup> People of the Mist 1894
- 1895 迦茵小伝 Joan Harte  
図書彙報 Joan Haste  
馬泰来003 Joan Haste 1895
- 1896 双雄較劍録 × Heart of the World  
× 図書彙報 Heart of the World  
馬泰来015 Fair Margaret 1907
- 1898 炸鬼記 × Dr. Therne  
× 図書彙報 Dr. Therne  
馬泰来023 Queen Sheba's Ring 1910
- 1899 煙火馬 × Swallow:A story of the Great Trek  
× 図書彙報 Swallow  
馬泰来019 The Brethren 1904
- 埃司蘭情俠伝  
馬泰来001 Eric Brighteyes 1891
- 古鬼遺金記  
馬泰来017 Benita 1906
- 豪士述獵  
馬泰来021 Maiwa's Revenge 1888

私には、畢樹棠が利用した資料について心当たりがある。商務印書館が自社出版物を宣伝するために発行していた『図

書彙報』ではなかろうか。

『図書彙報』第118期(商務印書館印贈1927.4)には、「説部叢書」初集、2集、



3集各100種および4集22種をかかげる。そのなかのいくつかについては原著者と原作を明記しているものもある。

たとえば、『血泊鴛鴦』H. R. Haggard: Dowd (198頁)<sup>マ</sup>\*6とあるのにもとづき、綴り間違いを Dawn と訂正して記録したのだろう。

畢樹棠は、漢訳ハガード一覧表を発表するにあたって、『図書彙報』によりかかったらしい。ただし、原作の発行年については、彼独自の調査によるものだとわかる。『図書彙報』にはそこまでは書き込んでいないからだ。

版元の記録だから、慎重な畢樹棠も信用したのだと考える。まさかそれが誤っているとは、彼を含めて誰も思わない。

のちの研究者も多くが同じ誤りを犯した。

馬泰来が林訳小説について、いちいち「寒光、朱羲胄、曾錦漳、韓迪厚皆誤謂原著為……」などと指摘しているところからも理解できる<sup>マ</sup>7。寒光らも『図書彙報』に拠ったのではないか。ついでに言えば、商務印書館『商務印書館図書目録(1897-1949)』(北京・商務印書館1981)は、過去の『図書彙報』をそのまま復刻したものらしく、原作についての誤りも再現している。注意を要する。

資料を追究して文章を書いている畢樹棠にして、漢訳ハガードの原作についてはズサンといわざるをえない一覧表しか作ることができなかった。

誤解しないでほしい。私は畢樹棠を批判しているのではない。外国語に関係す

るから翻訳についての研究がむづかしい、と言いたいのだ。清末に発表された翻訳小説の多くは、原著者名をかかげていても原作を明示しない。両者を欠くものさえある。漢訳の原本が入手しにくいことに加えて、英語原書との比較対照という手順を踏まなくてはならない。研究が進まないのには、理由があるのだ。普通の2倍から3倍の手間ヒマがかかる。1930年代でも、21世紀になった現在でも研究の手順に違いはない。

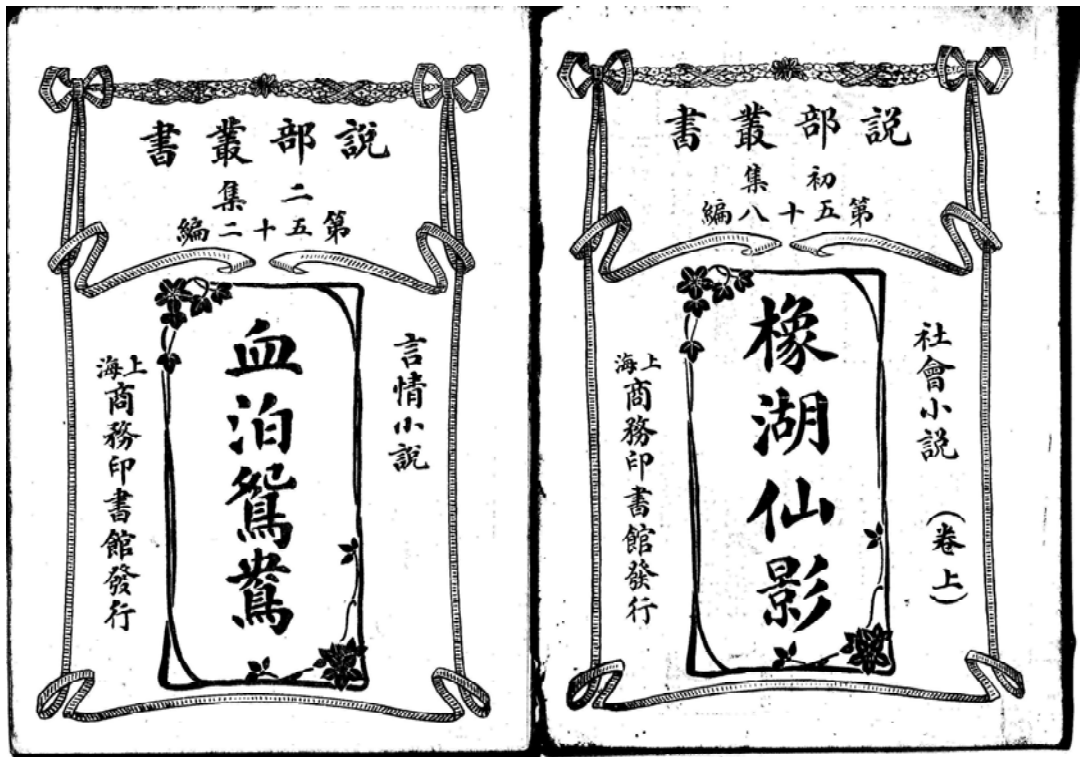
ただし、研究状況はすこしばかり変化したとはいえる。インターネットの発達で外国から古書を手入するのが比較的便利になった。やろうと思えば、だれでも研究に着手できる。

結局のところ、作品ひとつひとつの原作をつきとめる努力を積み重ねる以外に方法はない。昔も今も変わらない必要で重要な基本作業である。

こんなんがあります、と漢訳書名を並べるだけなら、それほど困難ではない。書籍目録から抜き出すだけで文章が書けてしまう。以前には無視していたのだから、論文に取り上げるだけマシ、という見方もある。だが、それだけでは研究を進めたことにはならない。漢訳原本を見ているのならば、せめて原作を明らかにしてほしい。少なくともその努力はしたい。そこから研究は、はじまる。

#### 4 『血泊鴛鴦』の原作

畢樹棠の一覧表では、薛一譔、陳家麟訳『血泊鴛鴦』(1909. 説部叢書2=52)の



原作は、“Dawn” 1884 ということになっている。

気になるのは、根拠が『図書彙報』らしいという点だ。間違っている可能性もある、と気づいてからにわかに不安になる。

商務印書館の「説部叢書」に収録されているもののうち、原作が同じで訳者、訳書名が異なっている作品もないではない。

たとえば、ハガードとアンドルー・ラングの共作になる“The World's Desire” (1890) がある。

畢樹棠は、上の一覧表のなかで「1891 世界的欲望 The World's Desire 与 Andrew Lang 合著，此種未訳」と書いている。漢訳されていない、と彼は注した

が、正しくない。2種類 of 漢訳がある。しかも、ふたつとも商務印書館の「説部叢書」に収録されている。

周樹人(魯迅)と作人の周氏兄弟によって漢訳名『紅星佚史』(1907。説部叢書八=8 / のち1=78)で発行された。これがひとつ。

もうひとつは、それよりずっとあとになって、林紘、陳家麟同訳で『金梭神女再生縁』(1920。説部叢書3=86)が出ている。

林訳小説の『橡湖仙影』(1906。説部叢書六=8)の原作は“Dawn” だという。しかし、『血泊鴛鴦』の原作も同じという保証はどこにもない。

馬泰来は、林訳小説については原作を確認している。だから、私は彼の記述を信頼する。しかし、同じハガードの原作

であっても『血泊鴛鴦』は林紓の翻訳ではないため、これについては何も書いていない。

『血泊鴛鴦』の原作は、今まで“Dawn”だとばかり思っていた。思っているだけでは研究は進まない。今、必要なのは、原作での確認なのだ。

調べてみると案の定だ。結論からいうと『血泊鴛鴦』の原作は、“Dawn”ではないことがわかった。

林訳『橡湖仙影』の冒頭を示す。

「ある日、若者フィリップは、兄のジョージをとがめて言った。でたらめだ。僕のお金をすったことをどうしてお父さんに暴いたんだ。忽一日小子腓力。斥其兄喬治曰。汝妄矣。汝奈許我於老人。謂波擲吾資耶」

一方、『血泊鴛鴦』は次のようにはじまる。

「パレスチナのカエサレアでは、ある日、盛大な宴会が開かれた。国王アグリッパが設けたもので、ローマ皇帝クラウディウスを祝福したのである。巴勒斯坦希幾銳亜城。一日方開盛会。会為国王愛革銳帕所設。以賀羅馬帝客老低亜者」

一見してわかる。両者は、別物である。

念のため“Dawn”の該当部分も掲げる。

「嘘つきめ。お前はいつも嘘つきだったし、これからもそうだ。お父さんに僕がどうやって金を使ったのかしゃべったな」“You lie; you always were a liar, and you always will be a liar. You told my father how I spent the money.”

『橡湖仙影』の原作であるのは明らか

だ。『血泊鴛鴦』の原作は“Dawn”ではない。

呆然とする。漢訳ドイルでも、漢訳アラビアン・ナイトでも同じような気分におちいった覚えがある。

ハガードの作品は小説だけで58種を数える。漢訳が発行された1909年以前のものに絞っても、33種ある。原作といちいち対照するには手間がかかる。だが、やらないわけにはいかない。

というわけで、試行錯誤の結果、探し当てたのが“Pearl-Maiden”(1903)である。書き出しを示す。

「シリア沿岸のカエサレアでは、真夜中を2時間すぎただけで、多くのものはまだ目を覚ましていた。ローマ帝国のおかげで全パレスチナの王であるヘロデ・アグリッパは、彼の頂点にあつて、クラウディウス帝を祝して祭典を挙行した...  
...。It was but two hours after midnight, yet many were wakeful in Caesarea on the Syrian coast. Herod Agrippa, King of all Palestine--by grace of the Romans--now at the very apex of his power, celebrated a festival in honour of the Emperor Claudius, .....」

『血泊鴛鴦』の原作は“Dawn”ではなく“Pearl-Maiden”だ、と訂正する。

漢訳ハガードのうち原作不明のものが、まだいくつかある。残された課題である。



#### 【注】

1) 馬泰来「林紓翻訳作品全目」『林紓的

翻訳』北京・商務印書館1981.11

- 2) 阿英「晚清小説目」「晚清戯曲小説目」上海文藝聯合出版社1954.8 / 増補版 上海・古典文学出版社1957.9、北京・中華書局1959.5
- 3) 張静廬輯註『中国現代出版史料甲編』(北京・中華書局股份有限公司1954.12上海初版)には、蒲梢「漢訳東西洋文学作品編目 一九二九年三月止」と記述して曾虚白の名前を削除する。「一九五四年元旦徐調孚誌於首都」と表示のある解説文がついている。
- 4) 太田辰夫「評介《老残遊記資料》」『大安』第9巻第3号1963.3.1
- 5) D.E.Whatmore “H.Rider Haggard A bibliography” Meckler Publishing Corporation, 1987 による。
- 6) 『図書彙報』第121期刊年不記、206頁も同様。
- 7) 馬泰来は、注1の「後記」、あるいは「林訳閑談」(『書林』1982年第1期1982)においてより詳しく過去の林訳小説研究について説明している。安易な原作調査を批判しているから参考にされたい。

#### 重要なお知らせ

本誌『清末小説から(通訊)』は、第77号より基本的に電字版のみの発行になりました。清末小説研究会のホームページ <http://www.biwa.ne.jp/~tarumoto> から印刷することができます。ご利用ください。

### 鄭富灼及其編纂的 商務印書館英語教科書

張 英

我在《啓迪民智的鑰匙 商務印書館前期中學英語教科書》一書中討論商務印書館成功出版教科書的原因之一是：聘請名家。而這些名家能夠被組織在一起必有一個善于組織他們的人。就商務印書館出版的總體而言是張元濟。具體到英語教科書而言那麼就應該是鄭富灼。

爲什麼要是鄭富灼？因爲鄭富灼從1907年進入商務印書館到1929年退休，一直是商務印書館編譯所英語部的主任。因爲鄭富灼親手編定的英語教科書不少于30種。可以說鄭富灼在我國早期英語教學中是一個大有貢獻的人物。

可惜的是現在的著作中很少有人提及他。1933年鄭富灼在他的《六十年之回顧》一文中說：“余雖足不出上海之門，顧能與國人相見于文字中。彼習英文者，則知余更詳也”。可見當時鄭富灼是一個很有名的人。但70年后的今天，雖然學習英語已經形成了熱潮，但是這位英語教科書編寫的前驅却已經被人們淡忘了。我在《鑰匙》(p.33)中寫到“鄭富灼是一個已經被

人們忘記的人物，各種記載很少”。這實在是一大遺憾。

我以爲了解商務印書館這些爲編輯教科書而付出大量精力的人，是研究商務印書館的一個部分。了解他們對今天編寫英語教材會有所幫助。《鑰匙》出版之后，在張人鳳先生和楊浦區教師進修學院圖書館的幫助下，我又尋找了鄭富灼一些新的材料。將有關情況記錄在下面，供研究者參考、使用、研究。

### (一) 《鄭富灼博士紀念集·前言》

先夫富灼先生去世既二十有七年。均永姪蒐集其生平事跡、自述傳略及友好紀念文詞匯編成冊，付梓裝帙，題名《鄭富灼博士紀念集》。余暨小女輩深感其意。固非爲先夫之有傳也。先夫生平勤謹誠篤，浮雲名利。心所爲道，身守力行。凡有益于世道者，莫不爲之，而不求人知。其所以屢述生平事略于人也者，蓋爲勵勉後生也。則茲冊之成，亦所以發揚先夫所守所行之道。非僅志念其人也已。

鄭林憐恩

一九六六年三月二十六日

### (二) 《鄭富灼博士紀念集·序》

鄭富灼博士曾英文自述其在美二十四年求學經過。后經全國基督教青年協會編輯謝洪賚先生譯成中文，載于1911年1月、2月份兩期《青年雜誌》。鄭博士后有文敘述其六十年之回顧，亦經譯載于伍聯德、梁得所先生等主辦之《良友畫報》1930年第47期。鄭博士原著兩文早已散軼，其僅有房舍亦已毀于兵燹，既博士之遺像亦無

一留存。謝君又復早捐館舍，幾經蒐尋，始獲兩文之中文譯本。是以今載兩文英文譯本，均由上述中文譯本轉譯而來。本書編輯之時，承伍聯德先生允予採用該文譯，及檢借博士遺影等。復蒙世交碩彥錫以鴻文。俾本書得有以成。謹此致謝。

鄭均永

### (三) 鄭富灼博士簡介

鄭富灼(1869-1938)：號敬西，字耀西。1869年生于廣東省新寧縣(臺山)一個小村。兄弟姐妹五人。8歲入村學，學習五經四書。1881年12歲時先到香港，再乘“中國”號郵輪去美國。到美國后先到三藩市。后到撒加緬度(Sacramento)，找到在那兒賣菜的叔叔，自己給一個美國人家當廚工。后來叔叔叫他到一個教會學校學習英文，受到一個姓陳的老師影響，開始對基督教有初步認識。

從15歲到19歲他住在教會公所中學習了生理、聖道、英文、初等科學等學科，並皈依了基督教。緊接着到救世軍的大本營學習宣傳教義。六個月后到加利福尼亞、阿利岡、華盛頓等處傳教。一年后進商業學校學習“速寫法”、“打字”等。學習后回到救世軍當書記。在這四、五年中接觸了許多有知識的人。1897年辭去救世軍的職務，進盤馬奈大學半工半讀。一年后進入加利福尼亞大學。大學的五年期間，曾經參加救世軍任打字員周遊美國。1900年在獲得文學學士學位后進了哥倫比亞大學。大學畢業前中國公使梁振東介紹他到廣州方言學堂任教員而回國。

1907年秋天鄭富灼到北京參加留學生

考試，得到了文學進士銜。他不願意任職郵傳部的工作而來到上海任商務印書館英文部主任。在商務印書館前期主要工作是編輯英語教科書。後來參加商務印書館的廣告、推銷等多項工作。1922年美國承盤馬大學賜以名譽法學博士銜。1929年鄭富灼從商務印書館退休。

鄭富灼熱心于公益事業。在美國大學曾任美國大學會主席。未畢業時已經任香港青年會干事。1908年開始為中華青年會全國協會執事，並任主席12年，任上海青年會董事，並任會長多年。任中國廣告會會長、中國麻瘋救濟會副會長。還曾經任山東齊魯大學董事、上海郇光學校董事會主席、南洋高級商業學校名譽校長等。

鄭富灼一生不食煙、不嗜酒、不賭博，不斤斤計較于圖利之道。他的立身之道是：一、努力服務，二、注重衛生、勤于體操，三、執業之余還參加其它活動。以舒身心之疲憊。（根據鄭富灼《六十年之回顧》和鄭均永《鄭富灼博士傳略》綜合而成）

#### （四）鄭富灼與商務印書館

##### 一、鄭富灼為什麼入商務印書館？

鄭富灼自述：（1907年）商務印書館顏駿人博士辭職，聘余繼其位為英文部主任，正投余之所好，良以余夙主張實事求是，不浮華虛譽。文墨生涯，正合余之志。

##### 二、鄭富灼與商務印書館之關係：

1、鄭富灼任商務印書館英文主任長達21年。

2、鄭富灼自述：余稍具儲蓄，即以之附充為該公司股份。其后仍繼續投資者有年。余每自顧曰：余今不僅為館之職員，

徒為他人作嫁衣而已矣。

##### 三、商務印書館對鄭富灼的態度：

1、任命其為商務印書館英文部主任長達21年。

2、《張元濟日記》記錄張元濟與鄭富灼交談工作等達389次。

3、鄭富灼自述：1922年，余承盤馬奈大學賜以名譽法學博士銜，並邀余親往接受。余從其言，作第二次之渡美。旅費悉由商務印書館代出，所以示其優異之待遇也。

##### 四、鄭富灼對商務印書館的態度：

鄭富灼自述：余每低徊往事，覺余之能向祖國稍貢其服務之誠者，全賴商務印書館之力。故余對於該館，常抱無限感戴之意。

##### 五、鄭富灼對商務印書館的評價：

鄭富灼自述：該館之有今日成績，良非偶然，一則管理有力。二則不受政治牽涉。

六、鄭富灼對商務印書館工作人員的評價：

鄭富灼自述：該館同人辦事忠誠戮力，余早信必能操成功之券。

#### （五）鄭富灼對英語教科書的一些認識

鄭富灼對英語教學的認識必然影響他對編輯英語教科書的態度。我目前還沒有發現鄭富灼有關這方面直接的論述。但是從鄭富灼所寫的下面兩篇短文不難看出他的對一些問題的看法。

##### 一、《英文新讀本·前言》

中國的英語教師總的說來在使用教材上還不稱職。這些冊子來自美國或來自英

國。這些書是假設對象為英語本族語的學生。因此對他們來說，那些習語和語法方面出現的困難，不用教師去克服。除此之外，對講英語的孩子認為是非常簡單的現象，而對中國學生來說則是全新的概念。

爲了排除這些困難，編者在編撰這六冊書的過程中，用中文作了大量的注解解釋疑難語句和習語表達，在詞匯中還用中文注解詞義。該部分由上海聖約翰大學畢業生在Zee Zung Zien先生的指導下提供的。

在選材方面，編者盡力考慮到中國學生的接受能力。他們在開始學習英語時年齡上已趨于成熟階段。因此，刪略了那些兒童化的有關動物和家庭事物的描繪，而採用發明、發現，傳記、歷史事實等題材。

鄭富灼

## 二、《英文新讀本·修訂版緒言》

鑑于中國教育部和使用過這些讀本的教師的建議，本系列的1—4冊做了全面的修改。

人們感到初版中出現的選材過長，同時有些從中國文學翻譯過來的文章不適合于課堂教學。因此，我們刪掉了那些長的、較難的材料，用那些措詞和風格較為簡易的材料來取代。新材料選自內涵有價值的文章來傳達普通信息和構造人品共性。保留下來的有些文章被分成短小精悍的課文，

有些在原文中出現的難詞被簡化或刪掉了。

對本系列叢書的分級我們極爲重視。爲此，編輯特別感謝Woo. K. K先生。他向我們提供了許多有益的建議。同時還感謝Kan Tso-ling先生，他爲我們編寫了中英文的注釋和詞匯表。

每冊有40課，課材廣泛。因此，盡管本系列各冊仍舊用舊的名稱，但是無論從何方面來講它們對讀者來說都是新的。

鄭富灼

## (六) 鄭富灼編輯的英語教科書

鄭富灼任商務印書館英文部主任后對英文著作的編輯可以說是不遺余力。編輯教科書只不過是編輯英語著作的一個部分。我對他編輯的英語教科書做出如下統計，但是這也肯定是一個不完全的統計。從這個統計中看，鄭富灼編輯英語教科書主要集中在1908年—1914年這7年。根據他本人的自述可以知道，在他進入商務印書館后，前期以編輯教材爲主，后來還要參加商務印書館的其它活動：他已不但是商務印書館的一個編輯，而自覺的爲商務印書館的發展在努力工作了。

下面是我所能夠了解到的鄭富灼編輯、校訂的英語教科書：

序	書名	英文書名	編譯·校訂	出版時間
01	英語會話教科書	Intermediate English Grammar	鄭富灼編纂	1908.9
02	初學英文教範		鄭富灼、徐銑編纂	1909.7
03	新世紀英文讀本 (全6冊)		鄭富灼(袁禮敦、 李廣成)等編纂 (教育部審定)	1910.5

04	英文規範		鄭富灼	1910
05	英文格致讀本 (全5册)	Science Readers Volume 5	(美)吉斯特(N Gist Gee) 原著 鄭富灼校訂 (教育部審定)	1911.3
06	英文益智讀本		鄭富灼校訂 (學部審定)	1911.9
07	英文新讀本		(美)安迭生著 鄭富灼 校訂(學部審定)	1911.9
08	初級英語讀本		鄭富灼校訂	1911.9
09	英語作文教科書		鄭富灼編(學部審定)	1911.9
10	初學英文軌範		鄭富灼 徐銑編(學部審定)	1911.9
11	增廣英文法教科書 (附華文注釋)	The Mother Tongue, Book II Adapted and Explained in Chinese	鄭富灼 徐銑譯訂	1911.9
12	簡要英文法教科書	Newsom Grammar Adapted and Explained in Chinese	鄭富灼 譯訂(學部審定)	1911.9
13	新法英文教程		鄭富灼著(學部審定)	1911.9
14	英語會話教科書	A Classroom Conversation, Book	鄭富灼著(學部審定)	1911.9
15	英語會話教科書	First Lessons in Speaking	鄭富灼編纂	1912.10
16	英華會話合璧	Fifty Lessons in English Conversation	張士一編 張元濟 鄭富灼校訂	1912
17	共和國教科書 中學英文法 (1-4册)	English Grammar for English Grammar Middle Schools, I-IV	鄭富灼編纂(教育部審定)	1913.6
18	英文法階梯(原名: 共和國教科書中學英 文法)(第2册)	First Steps in English Grammar	鄭富灼編纂	1913.6
19	英文尺牘教科書	A Class-Book of English Letter Writing Letter Writing	張士一編纂 鄭富灼校訂	1914.1
20	新世紀英文讀本 (卷首 卷1-5)	Chinas New Century Readers Primer, I-II	鄭富灼等編纂(教育部審定)	1914.3
21	初級英文法作文合編		吳獻書編纂 鄭富灼校訂	1915.11
22	新世紀英文讀本	English Learned by Use Second Book of Lesson in Speaking	鄭富灼等	1917
23	(修訂)英語模範讀本 (1-4册)		周越然編纂 鄭富灼校訂	1918.11
24	循序英文讀本		鄭富灼編著	1935.9

2004年10月23日于上海

我這篇文章寫完之后再向張人鳳先生  
(七) 張人鳳先生對本文的修訂 請教。張先生對全文的校訂、補充,我修



改在原文里面，不一一注明。張先生還提出了兩個問題：

- 1、表中所列出03《新世紀英文讀本(全6册)》與20《新世紀英文讀本(1-5)》是否重複？
- 2、表中所列11《增廣英文法教科書(附華文釋義)》：商務印書館民國7年2月1日圖書目錄署鄭富灼名。但我(張人鳳)見到該書1930年9月第26版的版權頁稱“1909年12月初版”，僅有“譯訂者 香山 徐銑”，無鄭富灼名。

我的手邊沒有這些版本的原書，因此

很難作出判斷。我想當時出版物每版的印數不多，每版的變化難免。我注意到在版權頁上每位參與者的“作用”用詞都不相同，有：著、編、編輯、參訂、校訂、編纂、編譯、譯訂、編著等不同的用詞。如果出現在目錄上則僅記有一個人名，就將后面的人名省略了。鄭富灼是商務印書館英語部的負責人，凡是英語類的書都應該與他有關，因此這些書他都有署名並不出意料。

張人鳳先生又為我的文章補充了8本英語教科書，並將補充的根據全部加以說明。全文照錄如下：

01	英文造句法		周越然參訂、鄭富灼校訂	1914.10初版
02	共和國教科書 高等小學英文讀本 (一册)	Progressive English Reader for Higher Primary School	鄭富灼、甘永龍、 蔡文森編輯	1914.9第4版
03	漢譯英文雜記 一、二集	Short Stories (with Chmere Notes)	鄭富灼	
04	簡易英文習字帖 二套	Easy English Penmanship I&II	鄭富灼	
05	訂正初學英文規範	Language Lessons	鄭富灼	
06	訂正新法英文教程	Beginners English Lessons	鄭富灼	
07	商務印書館新英文典 第一、二集	Commercial Press English Grammar I-II	鄭富灼	
08	共和國教科書中學 英文讀本 四册	Progressive English Readers for Middle Schools I-IV	鄭富灼	

其中：

02、據民國四年一月七日商務印書館圖書目錄。

03-06、這四種書據民國八年二月商務印書館圖書目錄，但無法考訂其出版年月。

07-08、這兩種書據民國七年二月一日商務印書館圖書目錄，但無法考訂其出版年月。

在我探討商務印書館英語教科書的過程中，張人鳳先生和夫人鄭寧女士一直給予全力的支持。衷心的感謝他們。 罍

2004年11月21日

『近代文学研究・拾稗』第14期(2004.10)第15期(2004.12)が発行された。

## 『新小説』の発行遅延

杜 筆 恩

『新小説』第二第九号 - 第十二号を入手した。同誌はすでに上海書店影印版が出ており、小説等の本文部分を読むには大きな支障はなくなっている。また、原本は揃いで上海図書館や中国現代文学館唐弢蔵書にあるそうで、公開されていれば、実際に見ることもできそうである。

さて本稿で取り上げるのは、同誌の発行年月の問題である。

樽本照雄「『新小説』の発行年月と印刷地」(原載『中国文芸研究会会報』32(1982.2.14) - 同『清末小説閑談』(法律文化社1983.9.20)再録を利用)及同「『新小説』の発行年月と印刷地2」(原載『大阪経大論集』53-2(2002.7.15) - 同『清末小説叢考』(汲古書院2003.7)再録を利用)によると、同誌は、第二第二号(第14号)と第二第六号(第18号)以降の号は発行年月を記載していない。にもかかわらず、推測であるとの断りもなく、上海図書館編『中国近代期刊篇目彙録』2(上海人民出版社1979.10)は、同誌の全号の発行年月を掲げ、

第二第十二号(第24号)をもって光緒三十一年十二月(1906年1月)に停刊したといい、それが通説になっているそうである。

そこで、上記樽本2002は、『申報』『時報』掲載の広告から、第18号から第24号が発行されたのは『中国近代期刊篇目彙録』の記述より七、八ヶ月遅れており、「終刊」は十ヶ月遅れの光緒三十二年九月頃だとの説を打ち出している。

郭浩帆「《新小説》創辦刊行情況略述」(『清末小説から』66(2002.7.1))でも、『月月小説』掲載の広告を引用し、樽本と同じ『申報』掲載の広告と併せて、停刊時期が1906年1月から遅れている可能性に言及する。

実際に、『新小説』の原本を見ても、奥付は無く、発行年月の記載は見えない。しかし掲載の広告から、発行年月を推測できる記述を見つけたので、ここに報告する次第である。

原本のうち、第二第十号(第22号)及第二第十一号(第23号)には全く同文の廣智書局による『法政速成科講義録』(以下、単に『講義録』とする)の広告が掲載されている。前者には補修のための白いテープが貼られており、コピーではわからないが、実物を透かすと後者と全く同じであることがわかる。

「法政速成科」とは、法政大学速成科のことで、清国留学生のために明治37(1904)年4月に設置され、5月に開講された。一年間で(同年10月入学生からは一年半)法学等を修得し終えるコースで、

**法政速成科講義錄**

**第二期出版廣告**

**本局** 去年發行之**法政大學速成科講義錄** 自出版後大受  
 學界之歡迎**第一期早經出全已滿二十四期** 之數惟  
 內中各科講義間有未完結者多以未得窺全約為憾故本局爰再與該大學  
 訂約仍發行**第二期** 刊本特訂明將**前未完各科接續**  
 講至**完結為止** 以便會購閱第一年分諸君續定以成全璧茲第二  
 十五六號經已寄到**書價** 全年二十四冊計洋**七元二角** 郵  
 費日本到上海每冊加洋一分零本恕不拆售如蒙續定請先付書價俾得  
按期發書若該錄各科講義未滿二十四冊即原銀四元一律完結者所缺冊  
數按全年價估計照除多則照加特此預白

上海河南路棋盤街  
**廣智書局總發行所啓**

清国公使の協力もあり、優秀な学生が集まったという。

その広告中に、「茲第二十五六號經已寄到」とある。ここで、実物の法政大学発行『講義録』第26号を見ると、明治39(1906)年6月26日発行となっている。

さねとうけいしゅう「留日学生全盛時代の法政大学」(『草原』4(法政大学中国研究会編集兼発行1959.1.13))によると、速成科の講義録は法政大学発行のもの以外にも、湖北法政編輯社による『法政叢編』や丙午社による『法政講義』等があったそうである。したがって、この広告の『講義録』と明治39(1906)年6月26日・法政大学発行の『講義録』第26号が同じものなのかが疑われる。しかし、後者の奥付に「法政大學御用書肆」として

日本の有斐閣とともに、廣智書局が「清国一手販賣」を冠して掲げられている。また、「書價」として日本円以外に「全年廿四冊 七元二角」等とあり、前者の広告と一致している。故に、両者が同じものを指すことは間違いない。

余談であるが、『法政大学物語百年史』(筆者・編集・発行：霞五郎、発行所：法友新聞社、1981.4.吉日)に「清国留学生速成科の設置」として、速成科のことが一章分記されている。中に、講義録について、下村海南(下村宏、財政学担当)の回想として、「……さすがに支那人だと思ったのは、<sup>(ママ)</sup>講義文を漢文に刷ってテキストとして学生に売っていたのはまだいいとして、このテキストを上海に持って行って大儲けしていたのが多いのだから、全くその商魂には恐入ったね。……」とある。しかし、この『講義録』を見ると、法政大学自身が発行して、上海では廣智書局に委託販売していたのだから、「大儲けしていた」のは法政大学自身かもしれない。更に『講義録』第26号裏表紙裏には、高木與兵衛の「清心丹」の広告(中国語)があり、「商魂」たくましいのは、法政大学ではないかとも思えてくる。

本題に戻る。明治39(1906)年6月26日という発行年月日が正確だとすると、第26号が上海に着いたのは、1906年6月26日以降になり、この広告を載せている『新小説』第二年第十号(第22号)の発行は、当然1906年6月26日以降になるわけである。

そういうわけで、該号が光緒三十一年

十月(1905年11月)に発行されたという『中国近代期刊篇目彙録』の記述は単なる憶測であり、誤りであろう。実際の発行年月は、上記樽本2002の指摘どおり、光緒三十一年十月(1905年11月)より七、八ヶ月(『講義録』の輸送にかかった日数や広告の依頼から実際に掲載されるまでにかかった日数を考えると、あるいはそれ以上かもしれない)遅れていたものと思われる。罫

百年是非，如何評説？ 2

劉鶚與山西鉞事新論

歐陽縈雪

『清末小説』第27号 2004.12.1

二

黒幕征答・黒幕小説・掲黒運動

.....范 伯群

周作人漢訳アリ・ババ「侠女奴」物語

2完 英訳検討篇.....樽本照雄

中国におけるコナン・ドイル(4)

.....樽本照雄

商務印書館と金港堂の合弁解約書

.....沢本郁馬

張元濟直接参与編纂、校訂的商務印書

館版教科書有幾種?.....張 人鳳

《海上名妓四大金剛奇書》作者“抽絲

主人”考.....胡 全章

論《花月痕》及其影響.....袁 進

劉鉄雲庚子北上之行踪 劉鉄雲書信

拾遺.....郭 長海

“失業秀才”鍾駿文詩文鈔.....劉 德隆

一篇關於李伯元の佚文.....王 燕

李伯元遺稿(6) 李錫奇『南亭回

憶録』より.....李 伯元

胡聘之(1840-1912)，字蘄生、萃臣，號景伊，湖北天門人。咸豐九年(1859)己未恩科順天鄉試舉人，同治二年(1863)考取國子監學正學錄，四年(1865)乙丑科會試中式進士，改翰林院庶吉士，七年(1868)散館，授職編修，八年(1869)充國史館協修，十年(1871)充武英殿協修，十二年(1873)九月考取御史，奉旨記名，十三年(1874)甲戌科充會試同考官，七月補武英殿纂修，九月充功臣館纂修。光緒元年(1875)三月充實錄館纂修，六月充本衙門撰文，九月充起居注協修，二年(1876)三月補授河南道監察御史，充丙子科甘肅鄉試副考官，三年(1877)九月巡視中城，十月轉掌四川道監察御史，四年(1878)七月掌河南道事務，十一月巡視西城，五年(1879)京察一等，掌京畿道事務，俸滿截取記名以緊缺知府用，六月補授工科給事中，九月截取記名以緊缺道員用，六年(1880)正月補授內閣侍讀學士，充庚辰科會試同考官，七

本誌第78号は、7月1日公開予定です

月補授太常寺少卿，八月丁父憂，回籍。八年(1882)十一月服闋起復，十五年(1889)四月補授太僕寺少卿，充己丑恩科四川鄉試正考官，十六年(1890)十二月補授順天府府尹，十七年(1891)充辛卯科順天鄉試監臨，八月署都察院左副都御史，九月充辛卯科順天武鄉試較射並武鄉試監臨，十月補授山西布政使，十八年(1892)正月護理山西巡撫，十九年(1893)賞加頭品頂戴，二十一年(1895)正月署理山西巡撫<sup>\*21</sup>，后擢陝西巡撫，旋調山西巡撫，戊戌政變后被革職。晚年閉門謝客，以詩詞書畫自娛。著有《山右石刻叢編》四十卷，收錄北魏至元代山西全境所存石刻，顯示了豐厚的學術素養，亦可見出對山西的深摯情感。

計自光緒十七年十月七日(1891年11月8日)至二十一年三月二十五日(1895年4月19日)任山西布政使(其中十八年四月十一日護理山西巡撫，二十一年一月十一日署理山西巡撫)，光緒二十一年九月十六日(1895年10月7日)任山西巡撫，至二十五年八月八日(1899年9月12日)解任，胡聘之在山西先后工作了八年。在這八年之中，中國經歷了甲午海戰與戊戌變法等重大事件，山西也處在邁向近代化的關鍵時期。

胡聘之思想開通，堪稱得風氣之先。早在光緒二十二年三月初一日(1896年4月13日)，即“百日維新”兩年前，升任山西巡撫方半年的胡聘之即上奏朝廷：“時艱需才，請變通書院章程，增課天算格致等學，以裨實用”<sup>\*22</sup>。《請變通書院章程折》說：“查近日書院之弊，或空談講學，或溺志詞章，皆無裨實用，其下者專摹帖括，注意膏獎，志趣卑陋，安望有所成就？”提

出要“更定章程，增加新的授課內容，凡算學、天文、輿地、農務、兵事，與夫一切有用之學，統歸格致之中，分門探討，務臻其奧”，以培養有用之人才。光緒帝批：“如所請行”。而在戊戌政變(1898年9月21日)兩周之后的八月庚子(1898年10月4日)，胡聘之與書院院長屠仁守，議“添日課四門，曰政治時務，曰農功物產，曰地理兵事，曰天算博藝，每門分有子目，令諸生各視性之所近，任占一門，逐日記所心得，仍探本于經史性理諸書，以為經濟根柢。雖于應習各種西學尚未備，然如天算、博藝、農功、物產之類，現皆分門探討，不難漸窺其奧，擬請即就令德書院，量加擴充，改為晉省省會學堂，書院院長改為學堂總教習，再延訂精于西學者一二人作為副教習，按照京師大學堂章程中西並課，以期明體達用，蔚為通才。其住院各生，向由學臣按試各屬拔其高等者調取入院，原設肄業生五十名，嗣又增博藝生四十名，現擬再增三十名，共一百二十名作為定額，應添學舍暨副教習等所居房屋，以及應行添置圖書儀器等件，已飭先行籌借款項，克期動工，並委員購辦，將來再行募捐歸補。惟查令德書院常年經費向僅四千餘兩，現既改設學堂，所需副教習薪膳、諸生膏獎一切費用等項，較前倍增，必須另籌的款，以備經費不敷之用。擬請援照安徽、湖南等省設立學堂奏請撥款成案，每年在于厘稅項下酌提銀六千兩撥入學堂，俾資應用而期經久”。得旨：管理學堂大臣並戶部知道<sup>\*23</sup>。“令德堂”為張之洞光緒八年(1882)所立，胡聘之改為山西省會學堂，並改院長為學堂總教習，聘兩名西學副教習，講

授格致、天文和算學等西學課程，這些都是本質性的改革，從而使山西的新式教育走到全國的前列。

自強運動興起后，沿海各省得風氣之先，陸續興辦實業。山西地處內陸，山川險固，交通不便，近代工業起步遠遠落后于沿海。加之自同治以來，歷任山西巡撫或在位時間不長，或思想觀念保守，對近代化都無甚建樹。如鮑源深(1812-1884)，字華潭，同治十年至光緒二年(1871-1876)任山西巡撫五年，在任時嚴禁鴉片，整頓吏治，頗有成效，但對新事物缺乏敏感。李鴻章同治十二年九月二十日(1873年11月9日)在給他的信中提示說：“晉中煤鐵鉍產甚多，行銷亦遠，是否定有收厘章程，若用西洋機器挖取熔煉，足可推行于通商口岸及各路制造局，與洋煤洋鐵相埒，大利所在，地不愛寶而取用無窮，中土罕有知其理者，公盍留意，毋汲汲憂貧也”<sup>24</sup>。居然沒有引起“汲汲憂貧”的他的任何反應。剛毅(1837-1900)，字子良，光緒十一年至十四年(1885-1888)，亦任山西巡撫三年多，后為軍機大臣、協辦大學士。此人為守舊諸臣之最，堅決反對維新改革，后參與謀廢光緒皇帝，立溥儀為“大阿哥”。指望號稱“菟括大王”的他為山西新興事業出力，無異緣木求魚。胡聘之的精神面貌則完全不同。他歷任鄉試考官，遊歷中國大江南北，曾參觀張之洞所辦漢陽兵工廠，耳聞目睹開放改革帶來的生機，深感山西發展實業之滯后。光緒十八年(1893)，當他還在布政使任上，即疏請“開發山西石炭和鐵鉍資源以興工業”，是為山西近代化的第一份政府文件。他又籌銀二萬兩，在太原

三橋街創立山西火柴局，親筆題寫“燧皇遺規”大字匾額，是為山西第一家現代工廠。升任山西巡撫之后，胡聘之更放手施展自己的宏圖。光緒二十四年(1898)，“以山西省向無機器制造局，亟宜籌辦，因派員赴天津向洋商定購制造槍砲各種机件，並酌建廠屋，雇集工匠，做洋式自行制造。在省城北關外擇地建廠。因山西僻在內地，非通商口岸，凡辦料募匠等事，用費極昂，即以歸化城關稅盈餘之款撥用。各機器運到晉省，開廠興工”<sup>25</sup>。他所創建的山西機器局，設在太原北關外柏樹園千佛寺，制造毛瑟步槍、馬槍、子彈等，是為山西近代机械工業之開端，代表了山西最先進的生產力，然已較1870年福建機器局晚了十八年！同年，改西羊市囚犯自新所為山西省工藝局，用機器織布、織帶子、做造新式肥皂，山西工業試驗所就是在此基礎上發展起來的。

胡聘之對於朝廷講求商務、擴充商利的號召，能結合山西具體情況作實事求是的分析。他于光緒二十二年五月二十八日(1896年7月8日)奏折中說：“開渠、種樹、繅絲、藝茶、植棉等項，或非晉省所宜，或須逐漸推廣，能否開辦，容臣體察情形，再行奏明辦理；惟所稱葡萄釀酒，皮毛筋角等貨，皆系北土所產，自宜及時擴充。查晉省葡萄，隨在皆有，尤以文水一帶所產為最，誠宜設局開辦，延請華洋人之精此業者教之醞造，設法銷售。且古昔酒在官，米麴等類，皆為之准則，此則民為釀售，官酌補助，尤屬有利無弊。至于羽毛齒革，載在《禹貢》，本與金錫同珍。今之皮毛諸貨，產自口外者，通行海內，晉省

腹地，亦間有之，但工劣質粗，行銷尚滯。若能招商設局，延訂專門講求機器，舉口內外毛貨加工精造，自可廣銷路而擴利源。惟是人情樂與觀成，難與圖始。晉省僻處偏隅，商民率皆狃于故常，若但由官設局勸辦，衆情不免疑阻，非得本省殷富紳商品望素著之人爲之倡導，恐難集事。查有籍隸山西之刑部候補郎中曹中裕、候選道冀以和、候選知府劉篤康，並皆識見明通，品行端謹，鄉望素孚，擬調該員等來晉，由臣督同司道與之商辦一切，必能聯絡官商，合爲一氣。俟在省城設立商務總局后，即就本省土貨足于行銷者先行集資試辦。此外查有可興之利，再行隨時推廣。即將來開辦鉅務，一切招商集股事宜，亦可派令經理。如蒙俞允，擬請旨飭下部臣，速令該員等來晉襄助，實于商務大有裨益”。得旨，如所請行<sup>\*26</sup>。光緒二十四年八月庚子(1898年10月4日)的奏折中又說：“省南蒲解一帶，素產棉花，可收紡織之利，爰議于絳州之三林鎮設立紡紗織布廠，業經購定基址，妥速興工，所訂機器，現已由外洋運津。惟鍋爐等件，過于笨重，尚須由水路運至道口，再由陸路運赴絳州，輾轉需時，大約來年當可開辦。因現署臬司河東道楊宗濂于機器紡織等事最爲熟悉，當即派令就近督辦，以專責成。近復議于該廠左近分設軋花榨油兩廠，並因陽曲地面素產硫磺，擬于省城設立火柴廠，均經定購機器，一俟秋冬運到，即可次第開辦。此外，如葡萄酒、奶油制餅、鎔鐵煉鋼、火磚玻璃之類，可興之利甚多，現尚無力興辦，緣商務局股本僅集銀四五十萬兩，尚不敷紡織各廠之用，仍須廣爲募集。而

晉省道途艱險，外商裹足，本省商富見利小而求效速，此等創辦之事又多不願附股，自非鐵路告成后，商股云集，財貨充牣，籌辦殊不易也。臣惟有力求振興，不殫勞費，與該員紳等盡心籌畫，勉力經營，以期仰副聖主通商阜民實事求是之至意”<sup>\*27</sup>。對朝廷的指示不是盲目地“響應”、“貫徹”，而是從地方實際出發，有針對性地予以處置，這種態度是很難得的。

胡聘之借落實朝廷設立商務局指示的機會，指出要“聯絡官商，合爲一氣”，一面就“本省土貨足于行銷者”先行集資試辦，一面爲“將來開辦鉅務，一切招商集股事宜”作好準備，更顯出了他對於開發路鉅的高度重視。光緒二十二年三月初一日(1896年4月13日)，胡聘之又奏：“晉省煤鐵之利，甲于天下，金銀銅鉛，亦有鉅砂可尋，籌辦開采情形”。下部知之<sup>\*28</sup>。在胡聘之的籌畫下，山西的路鉅建設緊鑼密鼓地開展起來。光緒二十三年六月初九日(1897年7月8日)，胡聘之奏上“爲晉省籌辦鉅務擬先修鐵路以通運道而擴利源”折，中說：“竊維晉省煤鐵之利，甲于天下，潞、澤、平、孟等處所產最旺而質亦最佳，誠宜及時開采以興鉅務而佐國用。……惟所需經費過巨，專恃本省集股，斷難有成，計惟有由外省殷商包辦，可期迅速。現據京師、皖粵各紳商情願自行籌借洋款，由商務局呈請來晉設立公司，攬辦鉅務鐵路，並聲明所貸之款，概歸商借商還，無庸國家作保，每年所得餘利，仍酌提十分之二歸公作爲報效，遇有軍需賑務調兵運糧，均照常價酌減等語。查核所擬辦法尚屬周妥，且借洋款究與集洋股有別，與總理衙

門通行亦不相悖，擬請即歸該商等承辦，冀可大興鉅利，有裨時局。如蒙俞允，臣仍當調驗合同，察其款項是否屬實，辦法有無流弊，再行發給凭單，以昭慎重。其一切詳細章程，屆時再行飭議，由臣核定后分別奏咨辦理，所有擬修晉省鐵路以興鉅利各緣由，理合恭折具陳。伏乞皇上聖鑒訓示”<sup>\*29</sup>。同年六月十五日(1897年7月14日)諭：“胡聘之奏籌辦鉅務擬先修鐵路一折，晉省煤鐵各鉅，運道阻滯，必須興辦鐵路，方能暢銷。覽奏設立公司所貸之款，商借商還，餘利酌提歸公各條，大致尚屬周妥。惟創辦伊始，必須預防流弊，並借款有無實在把握，著胡聘之悉心妥籌，酌定詳細章程，奏明辦理”<sup>\*30</sup>。胡聘之光緒二十四年八月庚子(1898年10月4日)折中更說：“查晉中大利以煤鐵各鉅為最，迭奉諭旨，飭令開辦。顧欲興鉅務以擴利源，必先修鐵路以通運道。節經臣將招商借款籌辦情形，先后奏明在案。現在鉅務章程，業經總理衙門議准，即歸商務局承辦。該局紳等已與洋商簽立合同，一俟延訂鉅師及工程師等來晉，即可定期開辦”。又得旨：戶部知道，並著轉行農工商總局查照<sup>\*31</sup>。

由此可見，胡聘之是在迭奉諭旨，飭令開辦煤鐵各鉅的情況下，發揮自己的主觀能動性，採取積極步驟的。修鐵路一節，光緒二十三年(1897)，胡聘之奏請由山西商務局向外國借款修建從直隸正定到山西太原的鐵路。幾經勘測，權衡利弊，決定將兩條鐵路交匯點選在正定府南滹沱河南岸的柳林舖，山西人因此將正太鐵路稱為“柳太鐵路”。二十四年三月(1898年3月)，派山西商務局曹中裕赴京，與華俄道勝銀

行簽訂《柳太鐵路合同》16條，借款2500萬法郎。光緒二十四年十一月初一日(1898年12月13日)總理各國事務衙門奏：“通籌鐵路辦法，宜分別緩急施行。……太原至柳林，已由山西商務局承辦……應請飭下該大臣等認真督飭，先其所急，其餘枝路，俟將來經費有餘，再議次第推廣”從之<sup>\*32</sup>。正太鐵路是山西第一條干綫鐵路，溝通了山西與各省的經濟文化往來。

而興鉅務一節，胡聘之與劉鶚產生了交涉。劉鶚與胡聘之的個人關係，因文獻材料的匱乏，已經難以鉤稽。有人說他是胡聘之的幕僚，一時也無法證實；而劉鶚給友人信中說：“蒿目時艱，當世之事，百無一可為，近欲以開晉鐵謀于晉撫，俾請于朝”。則又像是出于劉鶚的主動。唯一可以肯定的是，他們對發展山西實業確有相當共識。山東巡撫福潤以“向習算學、河工，兼諳機器、船械、水學、力學、電學、測量等事”，“學術淵深，通曉洋務”，“詢屬有用之才”<sup>\*33</sup>，于光緒二十一年(1895)，再次保薦劉鶚赴總理各國事務衙門考驗的事情，胡聘之應該是知道的；劉鶚自請以集股方式承辦蘆漢鐵路的事情，見于光緒二十二年三月初一日(1896年4月13日)諭：“又有廣東商人方培垚等，並候補知府劉鶚、監生呂慶麟，均稱集有股分千萬，先后具呈，各願承辦，請派大員督理等語”<sup>\*34</sup>，胡聘之也應該是知道的；湖廣總督張之洞聞劉鶚名，電招其赴漢口，欲將鐵政、鐵路二事並歸其辦，后因與盛宣懷意見不合，旋即返歸北京的事情，胡聘之也應該是知道的。《劉鐵雲呈晉撫稟》云：“昨日伏讀憲臺奏稿，大義凜然，文正不能專美于前。



韓昌黎云：‘至于舉世非之，力行而不惑者，則千百年乃一人而已耳’。舍憲臺吾誰與歸！狂瞽之言，伏乞裁察”。劉德隆先生以為，“憲臺奏稿”指胡聘之的《奏設商務局折片》，考得刊于《集成報》第九冊，出版時間為1897年7月24日，推定此稟寫于其日之后。實際上，更大的可能是指1897年7月8日胡聘之的“為晉省籌辦鉅務擬先修鐵路以通運道而擴利源”折。《呈晉撫稟》開首即曰：“竊某于前月接商務局函，稱擬向福公司籌借洋債一千萬兩，章程必須擬妥，利息必須最輕等情。囑擬大略章程恭呈憲鑑。當將此意與西人羅沙第商之，據云無所不可。謹案洋債計有兩種辦法，並山西現在情形，敢據實直陳，如有可采之處，某當馳太原面求訓誨”。商務局函中，有可能將胡聘之“奏稿”附上，使他得以“伏讀”；而奏稿已有“籌借洋款”之語，頗有韓昌黎云“舉世非之，力行而不惑”之氣概，故劉鶚以“大義凜然”贊之。寫信之時，劉鶚已在福公司任職，向福公司籌借洋債，則是山西商務局函請辦理的，劉鶚此時尚未與胡聘之謀面。而從劉鶚角度看，正當他興辦實業之舉屢屢受挫之時，山西的動向也引起了他的注意。他身在北京，朝廷頻頻發出的“開鉅為方今最要之圖”的指示，山西煤鉅的豐厚蘊藏，以及胡聘之請調曹中裕等來晉、設立商務總局，“將來開辦鉅務，一切招商集股事宜，亦可派令經理”的奏折，都聳動了劉鶚新的熱情。光緒二十三年(1897)，四十一歲的劉鶚三赴太原，意欲為山西鉅業一顯身手。

劉鶚為什麼能“籌借洋款”？原來，他光緒二十二年(1896)即“與義商羅沙第君定

交，幫同辦理各項事宜，福公司、惠工公司皆所列也”<sup>35</sup>。福公司(Peking Syndicate Limited)是英國在華兩大公司之一，1896年在倫敦設董事會，在北京設辦公處。意大利人康門斗多·恩其羅·羅沙第是公司的負責人之一，當時又是中國招商局總辦馬建忠的副手<sup>36</sup>。馬建忠(1844-1900)曾為李鴻章辦理洋務，光緒十六年(1890)作《富民說》，認為對外通商是求富之源，修鐵路、開煤鉅則是主要途徑；至于資金不足，可設立商務衙門，以借用外資<sup>37</sup>。馬建忠是劉鶚的摯友，故介紹他與羅沙第定交，聘為山西福公司華人經理。劉鶚來山西之前，與山西商務局當有多次書信往復，在雙方取得共識之后，方動身來到太原。☐

#### 【注】

- 21) 《清代官員履歷檔案全編》第六冊，第34-35頁，華東師範大學出版社1997年版
- 22) 《德宗實錄》卷387，第1頁
- 23) 《光緒朝東華錄》總4213-4214頁
- 24) 《李鴻章全集》第3556頁
- 25) 《清史稿》卷一百四十
- 26) 《光緒朝東華錄》總3803-3804頁
- 27) 《光緒朝東華錄》總4214-4215頁
- 28) 《德宗實錄》卷387，第2頁
- 29) 《光緒朝朱批奏折》第102輯，第5-7頁
- 30) 《德宗實錄》卷406，第15-17頁
- 31) 《光緒朝東華錄》總4214頁
- 32) 《德宗實錄》卷433，第1-2頁
- 33) 《劉鶚及老殘遊記資料》第126頁
- 34) 《光緒朝東華錄》總3762頁
- 35) 《鉅事啓》，《劉鶚及老殘遊記資料》第131頁
- 36) 肯德《中國鐵路發展史》

晚清小説作者掃描 (貳)

武 禧

( 零零三 )

何夢梅

小説創作：《大明正德皇遊江南傳》

何夢梅：道光年間人，應生於1812年之前。字雪光，廣東順德人。“宿負慧性，胸懷豁達。嘗以奇書異傳以之寓意，即以之戲慨世情也”。1832年前完成《大明正德皇遊江南傳》。其對自己作品的評價是：真實而不矯揉造作。與樵西黃逸峰志趣相投。

( 蕉西，或為蕉嶺之西？ )

何夢梅《大明正德皇遊江南傳》又名《遊龍幻志》。有序兩篇。全文錄后：

《遊龍幻志·序》

竊思：余之素志，性奢 文，凡有稗官野史，罔 評閱。常欲燈篝蕉雨之虞，用以寄興書懷。友人何夢梅先生宿負慧性，胸懷豁達。嘗以奇書異傳以之寓意，即以之戲慨世情也。自未識荆時，因 古為懷，知我者鮮，豈期先有同調。噫嘻，彼此相遇，各述其志，遂成密友。偶於一日，促膝

談心之瑕，友人夢梅以一書授予。觀覽吟詠之際，不覺擊節嘆賞。指書而嘆說：抑揚婉轉，此中別有深心。友人聞言而嘆曰：弟徧此書正如村婦不含顰，牧童不揖讓，一味率真耳。余答曰：冰晶鹽味，雖淡猶濃。是為序。

道光壬辰夏季上浣樵西黃逸

峰拜題

《自敘》

余閱鑑史諸書，見歷代皇帝未有如正德武宗者。想其行年十五即皇位，

宸以好 樂遊，為心存不以江山為重。遂 羣魔百出，社稷幾度傾危。

幸賴八良臣為匡獲，乃得日月幽而復明，社稷危而復安。此乃非關昏暗而出乎自心之好逸乎？第是其於國家康寧之后，君臣宴樂之時，細察風

何其 。

迨及一聞江南勝地，即欲微行。於是僭易衣冠，月下追賢，何其快捷。及江南一下，見酒樓月榭，

杏店桃津，柳岸花村，綠窗紅粉，各府之炎涼世態盡入於聽聞觀記之中，

各郡之風土人情畢現與車駕輪轅之下。為民除害，為國除姦，何其樂暢。又於酒樓戲鳳之時、宗府舞花之際，或未是而懷思，或於逢而乞寵一呼百和，

何等如心。余見此段文詞，足堪寓目而稗官野史亦未有以 傳。故於風雨惆悵之瑕，採疊成篇。未敢誇言筆墨，

不過是其有可觀，聊學志之，以為我輩清夜長宵之遣興耳。

道光壬辰中浣順邑虛(雪？霍？)

庄何夢梅識

( 零零四 )

惺惺居士

小説創作：《精神降鬼傳》

惺惺居士：道光年間平陰人。姓石，人稱石翁。生平奔走四方。道光二十二年（1842）前完成《精神降鬼傳》的撰寫。（筆者沒有見到《精神降鬼傳》原著。根據《中國小説總目提要》中所提及爲此書撰“序”、“跋”和“題詞”的所有人名，也不見任何著錄。）

( 零零五 )

寄生氏

小説創作：《五美緣全傳》

寄生氏：生平不見任何著錄。

關於寄生氏是否此書的作者，有下面的意見：1、孫楷第《中國通俗小説書目》以爲其作者爲“寄生氏”。2、蕭湘凱根據是書“敘”中說：“客持《五美緣》見示……”認爲“寄生氏”是此書“敘”的作者而不是小説作者。

《五美緣全傳敘》如下：

美人者，天之靈秀所鍾，得一已難，況倍之而復蕪之乎。暮春坐海棠花下，客持《五美緣》見示。細加詳閱，竊思錢月英之純真，趙翠秀之純烈、錢落霞之純謹，守志完身，仗義除逆，皆巾國中僅見者。至若蕙蘭堅隨寒士，飛英愛服將材亦不媿美人之號。馮生何福，書儒消受如許溫柔鄉也。他如林公吏治附書之足長知識，信乎？天生才子必配鍾靈毓秀，天之所以成全美人也，如五美緣其一耶。

壬午穀雨前二日寄生氏題於塔影樓之西樹

（關於此書作者《中國通俗小説總目提要》云“不題撰人”，日本樽本照雄《清末民初小説目錄》未收此書。此書的作者、出版時間都有不同意見。不贅）

( 零零六 )

花月癡人

小説作品：《紅樓幻夢》

花月癡人：道光年間人。姓字、生平不詳。道光癸卯（1843年）前完成《紅樓幻夢》。其對《紅樓夢》“嘗究心是書”因而多有心得。寫此書的目的是“使世人破涕而歡，開顏作笑”。雖然《紅樓幻夢》一反《紅樓夢》本意，而以妻妾團圓的喜劇結局，但是他在《敘》中闡明了自己的觀點“凡六合之人，困苦悲離，富貴利達，無非夢幻泡影”。可見作者在描述歡樂之時，依然對人生苦澁多有感慨。

《紅樓幻夢》一書無作者署名，但是有花月癡人《敘》言明書、敘作者爲同一人。其敘全文如下：

同人默庵問余曰：“《紅樓夢》何書也？”余答曰：“情書也”。默庵曰：“情之謂何？”余曰：“本乎心者之謂性，發乎心者之謂情。作是書者蓋生於情、發於情、鍾於情、篤於情、深於情、戀於情、縱於情、囿於情、癖於情、癡於情、樂於情、苦於情、先於情、斷於情、至極乎情，終不能忘乎情。惟不忘乎情，凡一言以蔽事、一舉一動無而不用其情，此之謂情書。

其情之中歡洽之情太少，愁緒之情苦多。何以言之？其歡洽處，如花解語、玉生香、識金鎖、解琴書，撕扇、品茶、折棋、詠菊等事，不過令人爽脾；其悲離處，如三姐戕、二姨殃、葬花、絕粒，洩機關、焚詩帕，誅花、護玉，晴雯滅、黛玉亡，探春遠嫁、惜春皈依、寶玉棄家、襲人喪節。各情閱之傷心，足令人酸鼻。凡讀《紅樓夢》者，莫不為寶黛二人咨嗟甚而至於飲泣。蓋怜黛玉割情而夭、寶玉報情而遁也。余嘗究心是書”。默庵曰：“可知是書乃紅樓中一夢耳？”余曰：“然”。彼則曰：“子何不易其夢而使世人破涕為歡，開顏作笑耶？”余曰：“可”。於是幻作寶玉貴、黛玉華、晴雯生、妙玉存、湘蓮回、三姐復、鴛鴦尚在、襲人未去諸般樂事，暢快人心，使讀者解頤噴飯，無少歎歎。凡人居六合之中，困苦悲離，富貴利達無非夢幻泡影，是以癡人說夢。細玩紅樓，乃奇夢也。癡人烏得而語之？今撫其奇夢之未及者，幻而出之，綜托之於夢幻，古名之曰“幻夢”云。

道光癸卯秋花月癡人書於夢怡紅舫

『清末小説から』第76号 2005.1.1

「天方夜譚」小考 ……………樽本照雄

1909年発表的一篇“狂人日記”…范伯群

【資料】催眠術 ……………冷

晚清小説作家掃描(卷)……………武 禧

百年是非，如何評說？1……………歐陽紫雪

録吳趸人《端陽新樂府》……………武 禧

漢訳アラビアン・ナイト (11)

樽本照雄

【井上勤】婦人は又肉を鬻ぐ店に立寄り美肉二十五斤を買ひ、之をも同じく籠に入れ更に他の店に至りてケーパー、タルラゴン、胡瓜、サツサフラフ、其他酢に漬べき野菜類を買求め、……199頁 / 三版 279-280頁

調べてみれば、井上訳でいう「タルラゴン」とは、タラゴン tarragon のことだ。フランス語でエストラゴンという方が料理に詳しい人にとってはなじみがあるかもしれない。酢漬けにして食するのが普通だ、とものの本には書いてある。

井上訳本がもとづいた英文原本には、タラゴンと載っていると想像される。そのうしろの「サツサフラフ」は、サッサフラス sassafra のことであろう。こちらは、植物といっても代用茶にする葉で有名らしい。

漢訳は、「サツサフラス」という原語を「芹菜」に置き換えたのだろうか。そう考えるのは、漢訳が井上訳と同じ原本に

拠っていると仮定すればの話であって、はたして同一の原本なのかどうかはわからない。

井上訳本が拠った英文原本は、それでは、タウンゼンド版とは別物なのか、という疑問が当然のように生じる。

ところが、柳田泉がそれを説明して、「『全世界一大奇書』は『アラビヤンナイツ』(やはりタウンゼンド版)の翻訳で、量からいって永峯氏のものに数倍し、無論抄訳であるが、ほぼ首尾ととのっている」<sup>31</sup>と書いている。柳田泉が、井上訳はタウンゼンド版だ、と断言している点に注目しておきたい。

井上訳本も、同じタウンゼンド版だというのは意外な指摘である。漢訳を検討してきて、いままでさんざんタウンゼンド版とは異なる箇所を指摘してきた。タラゴンについても、タウンゼンド版には、その単語を見ない。にもかかわらず、柳田泉は、井上訳本の底本はタウンゼンド版だと断言しているのだ。まさか、これが誤りだとは私は思いもしない<sup>32</sup>。だから、柳田泉の証言があるのだから、タウンゼンド版には語句の違う異版が存在するのだろうか、という疑問を当然のように抱いたのだ。

タラゴン問題は、漢訳の底本を特定するうえで、有力な手掛かりを与えてくれているのではなからうか(後述)。

今、それを解決することができない。別の版本が手元にないからだ。疑問のままにして、先に進みたい。

『繡像小説』連載時と、のちの「説部

叢書」収録本とのあいだには、語句の違いがあることについては、すでに触れた。

もう1例をあげておこう。

美女のお供をして買った品物でカゴがいっぱいになっている。

【タウンゼンド】She then went to a druggist's, where she furnished herself with all manner of sweet-scented waters, cloves, musk, pepper, ginger, and a great piece of ambergris, and several other Indian spices; (彼女は、つぎに薬剤師のところに行き、すべての種類の香水、丁子、麝香、胡椒、生姜およびリュウゼン香の大きなかたまり、そのほかのインドの香料を購入したのです) 41頁

【サグデン】(musk のかわりに nutmeg が出現しているほかは、同一文章)

【繡像小説】既而入一薬室。購香水丁香胡椒荳蔻生薑龍涎香及印度香料畢。(ある薬屋へ入ると、香水、丁子、胡椒、ズク、生姜、リュウゼン香およびインド香料を購入したのです) 1丁オ

【説部叢書】既而詣薬室。購椒蔻龍涎之属。(薬屋へ入ると、胡椒、ズク、リュウゼンの類を購入したのです) 40頁

nutmeg はニクヅクだから、漢訳の「椒荳蔻」がそれにあたるとすると、この部分はサグデン版に拠っているか。

初出の『繡像小説』が、ほぼ英文原作の語句のままに忠実に漢訳していることがわかる。説部叢書版は、それを簡略化していることも理解いただけるだろう。

荷担ぎ人がたどりついたのは、美女ばかりがいるある邸宅であった。

タウンゼンド版は、邸宅に出迎えた美女については、あっさりとして描写するだけ。

【タウンゼンド】 There they stopped and the lady knocked softly. Another lady soon came to open the gate, and all three, after passing through a handsome vestibule, ..... (そこでふたりは足を止めると、その女性はひそかにたたきました。別の女性が扉を開けて、3人ともに立派な前庭を通り抜けたあと、.....) 41頁

あっさりどころか、これでは女性が出てきただけで、彼女たちがどれだけ魅力的であるかなど、皆目わからない。描写がないのだ。だが、漢訳は違う。

【繡像小説】少婦止歩。輕搗其門。方竝立時。担夫目眩神飛。意謂少婦衣服麗都。必貴家女。然何以不憚僕僕。得毋為大家侍婢。(若い女性は歩みをとめて、ひっそりと扉をたたきました。たたずんでいるとき、荷担ぎ人は目がくらみ上の空だったのです。というのは、女性の衣裳はすばらしく、きっと身分の高い女性にちがいない、だが、なぜ憚らずあくせくしているのだろうか、名家の召使いであるはずがない、と考えたからです) 1丁ウ

【サグデン】 Here they stopped, and the lady gave a gentle knock at the door. While they waited for it to be opened, the porter's mind was filled with a thousand

different thoughts. He was surprised that a lady, dressed as this was, should perform the office of the housekeeper, for he conceived it impossible for her to be a slave. (そこでふたりは足を止めると、その女性はひそかに扉をノックしました。扉が開くのを待つあいだ、荷担ぎ人の心は千々に乱れました。出てきた女性に驚かされたというのは、その服装からすれば、家事を担当しているようで、彼女が奴隷であるはずがないと想像したからです) 53-54頁

漢訳の詳しさからして、タウンゼンド版ではなくてサグデン版そのものなのである。

では、以後、漢訳は底本をサグデン版に乗り換えているかといえば、そうはいかないからますます混迷の度合いを深くする。

美女3人の名前を漢訳では、蘇培特 Zobeide、舎非 Safie、愛米 Amina とする。タウンゼンド版には、そう書いてある。だが、サグデン版では、名前が出てくるにしても、タウンゼンド版とは別の場所になる。

前述したことだが、漢訳は、タウンゼンド版によりながらも、一方でサグデン版も参照しながら翻訳を進めたように見える。というよりも、この部分は逆で、サグデン版を中心に置いたのではないかという気もする。

荷担ぎ人が、美女3姉妹を目の前にして立ち去りがたい気持ちになっているの

を見て、彼女たちの秘密を口外しないならば、そこに居てもよろしいと許可された時のことだ。アミナが服を着替えてくる。

【繡像小説】時愛米脱行衣。卸長服。(その時、アミナは、外出着を脱いで、長衣をぬいだのです) 2丁ウ

【説部叢書】時愛米卸行衣。並去長服。(その時、アミナは、外出着を脱いで、長衣もぬいだのです) 44頁

上の漢訳では、アミナは、服をぬいでばかりいる。奚若の誤解ではなからうか。実は、サグデン版では、そうっていない。

【サグデン】While she was speaking, the beautiful Aminè took off her walking dress, and fastening her robe to her girdle, (ゾバイデがはなしているあいだ、美しいアミネは、外出着を脱いで、浴衣の帯を締めたのです) 57頁

タウンゼンド版では、荷担ぎ人は、よけいなことを口外するな、と扉に書かれている文字を読むことになっている。アミナが外出着を脱ぐなどという描写はない。

荷担ぎ人をまじえて美人3姉妹は、飲めや歌えの宴会をくりひろげることになった。別の版では見られる4名の淫らな宴会模様は、タウンゼンド版、サグデン版ともに削除している。ゆえに、漢訳に

も、その描写はない。

そこに宿を求めてたずねてきたのが3人の托鉢僧だった。奇妙なことに、3人ともに右眼がつぶれている。

3人は、室内の豪華なことに感心しながら入ってきて、荷担ぎ人を見て同類だと思ったらしい。

【繡像小説】旋見担夫。注目視之。疑為同類。又異其不雜鬚眉。其一人乃語担夫曰。汝其亜刺伯教中之叛亡者歟。(ついで荷担ぎ人を見ました。彼のことを目をこらして見て、同類だろうと思ったのですが、ヒゲ、眉を剃っていないのが異なります。そこでひとりが荷担ぎ人にいいました。「あんたはアラビア教の反逆者かね」) 3丁ウ

「説部叢書」は、「担夫」を「甲」と書き換えているだけで、あとは同文。

漢訳に見るような托鉢僧の荷担ぎ人にたいするセリフは、どうしたわけかサグデン版には、ない。タウンゼンド版に同様の記載がある。

【タウンゼンド】before they sat down, having by chance cast their eyes upon the porter, whom they saw clad almost like those devotees with whom they have continual disputes respecting several points of discipline, because they never shave their beards nore eyebrows; one of them said, "I believe we had got here one of our revolted Arabian brethren." (彼らが

座るまえに、偶然に荷担ぎ人が目に入りました。いくつかの規則について彼らがいつも常に論争をしている教徒のように見えたのは、ヒゲと眉を剃っていなかったからです。ですら彼らのなかのひとりが言いました。「ここにムカムカするアラビア人の信者仲間がいると思うな」) 44-45 頁

漢訳の「亜刺伯教」には、「アラビア教」と訳語をつけておいたが、理解しにくい。Arabian brethren からの漢訳かと思う。

英文原作が托鉢僧仲間での会話であるのにたいして、漢訳では直接、荷担ぎ人に話しかけるという違いはある。だが、その違いを考慮すれば、内容は、ほぼ同一だといっていい。

サグデン版かと思えばタウンゼンド版が出てくる、というぐあいに、底本は、一定しないのである。

あれこれ質問するのではない、と書いてあったのを忘れたのか、と荷担ぎ人に怒鳴られて、おとなしくあやまる托鉢僧たちであった。

一同酒を飲んでうかれだし、托鉢僧が楽器演奏をすることになる。タウンゼンド版では、サフィエが取ってくる楽器の名前までは書いていない(45頁)。だが、サグデン版は、もう少し詳しい。

【サグデン】a flute of that country, also another used in Persia, and a tambour de basque (その地方の笛と、おなじくペル

シアで使われているやつ、および太鼓です) 60頁

【繡像小説】舎非奔取本国笛波斯笛各一枝。巴斯款羯鼓一具出。(サフィエは、本国の笛とペルシアの笛各1本とバスクの太鼓を取りにいきました) 4丁オ

tambour de basque は、身体につける太鼓かと思うが、漢訳では、バスクの太鼓と音訳をまじえた。

くりかえし指摘しておきたいが、漢訳がサグデン版とタウンゼンド版のあいだをいききしていることがわかるだろう。

皆でうかれ騒いでいる物音が外にもれているらしく、夜の町を巡回していたハルウン・アル・ラシッドたちの耳に入った。行ってみようということになる。

前に、タウンゼンド版にもサグデン版にもみえない「タラゴン」について言及した。日本の井上勤訳本に見える。タウンゼンド版には異版があるのか、と私は疑問をだしてもいる。

ここに至って、おなじ現象が再び漢訳に生じていることをいいたい。タウンゼンド版とサグデン版にないことを漢訳は述べるのである。

【繡像小説】言至是。司乞黒勒石(即蘇丹妃[ ])謂蘇丹曰。陛下欲知此事之究竟。(ここまで話すと、シャーラザッド(国王の妃)は、国王にいった。陛下はこの物語の最後までお知りになりたいでしょう) 4丁オ



「説部叢書」では、「司乞黒勒石」を「史希拉才得」と書き換えた以外は、同文である。

【井上勤】と語り来りてセヘラードは語を改ためスカリヤ王に対し、陛下には必ず御心の内に何故かゝる……302頁

タウンゼンド版には、語句の異なる異版が存在するのか。それともタウンゼンド版とサグデン版によく似た、別の版本かもしれない。謎は、ますます深まるばかりなのだ。資料を収集しながら考えるほかに方法がない。

ハルウン・アル・ラシッド教主と大臣のジャアファル、および警備のマスルールが、商人の服装をして美女3人の家を訪問した。その言い訳が、べつの商人の宴会に呼ばれて浮かれていたが、騒ぎすぎて警官に踏み込まれ逮捕者が出ているのをからくも逃げ出してきた。町に不案内でこの家にたどりついた、という。この描写は、サグデン版にのみ存在する。井上訳本にも同様の記述があることを申し添えよう。

美女3姉妹、荷担ぎ人、托鉢僧3名、ハルウン・アル・ラシッド一行3名の合計10名で宴会を始めた。飲めや歌えの大騒ぎが一段落したところで、3姉妹は奇妙なことを行なう。2匹の黒犬を引き出してきて鞭でいじめぬくのである。教主は、その理由を知りたがった。だが、質問してはならない、という約束がある。姉妹は、犬をいじめ疲れると、こんどは

リユートを取り出して弾き歌いをする。

教主はがまんができず、約束を破って荷担ぎ人に質問をさせた。こうして、全員が三日月刀を持った7人の奴隷に拘束された。 罫

【注】

- 31) 柳田泉『明治初期翻訳文学の研究』  
明治文学研究第5巻 春秋社1961.9.  
15/1966.3.10二刷。41頁
- 32) 杉田英明「『アラビアン・ナイト』翻訳事始 明治前期日本への移入とその影響」(東京大学大学院総合文化研究科・教養学部『外国語研究紀要』第4号2000.3.31)によると、英文原本は、エディンバラのニモ Nimmo 社1865版であるという。10頁

清末小説から

王徳威著、宋偉杰訳

『被压抑的現代性：晚清小説新論』

台湾・城邦文化事業股份有限公司、  
麦田出版事業部2003.8.1

中文版序

導論 没有晚清，何来五四？

第1章 被压抑的現代性

第2章 寓教於惡 狎邪小説

第3章 虚張的正義 俠義公案小説

第4章 荒涼的狂歡 醜怪譴責小説

第5章 淆乱的視野 科幻奇譚

第6章 歸去来 中国当代小説及其晚清先驅

(美)韓南PATRICK HANAN著、徐俠訳  
『中国近代小説の興起』  
上海教育出版社2004.5  
“小説界革命”前の叙事者声口  
《風月夢》与煙粉小説  
中国19世紀の伝教士小説  
論第一部漢訳小説  
早期《申報》の翻訳小説  
新小説前の新小説 傅蘭雅の小説競賽  
吳趸人与叙事者  
《恨海》の特定文学語境  
陳蝶仙の自伝体愛情小説  
韓南教授の治学和為人……李 欧梵  
夏曉虹  
『晚清女性与近代中国』  
北京大学出版社2004.8  
第3章 晚清女報の性別觀照 《女子  
世界》研究  
第6章 誤訳誤読与正解正果 批茶女  
士与斯托夫人  
第9章 從新聞到小説 胡仿蘭一案探  
析  
第10章 紛紜身後事 晚清人眼中的秋  
瑾之死  
『出版史料』2004年第2期(新総第10期)  
2004.6.25  
從《張元濟書札》説起 ……汪 家熔  
革命前驅 報壇女傑 秋瑾、陳擲芬  
研究 ……李 九偉  
《新新小説》主編者新探 ……郭 浩帆  
『明清小説研究』2004年第3期(総第73

期) 2004発行月日不記  
晚清翻譯小説の文体演变及其文化闡釈  
……談 小蘭  
關於《中国古代小説総目》(關於中国古  
代小説目錄学1) ……石 昌渝  
我与小説研究的書目書(關於中国古代  
小説目錄学1) ……陳 大康  
《真如島》(《中国通俗小説総目提要》  
補遺) ……苗 懷明  
《張袁兩友相論》(《中国通俗小説総目  
提要》補遺) ……杜 魚  
日野杉匡大 蘇曼殊『惨世界』論 創  
作部分の主人公「明白男徳」を  
中心に 北大中国人文学会『饗  
饗』第12号 2004.9.30  
盤 劍 論鴛鴦蝴蝶派文人的電影創作  
『文学評論』2004年第6期2004.  
11.15  
欧陽 健 『歴史小説史』 杭州・浙江  
古籍出版社2003.3  
HENRY P.CHENG(程盤銘) CHINESE  
ARTICLES ON SHERLOCK  
HOLMES “SHOSO-IN BULLETIN”  
VOL.14 2004  
中里見敬 吳趸人『恨海』における内面  
引用の形式 九州大学大学院『言  
語科学』第39号 2004.2.28  
樽本照雄編  
清末小説研究ガイド2005  
清末小説研究資料叢書8 B5判 135頁  
限定200部 定価:3,150円